

# 宮古島市史だより

第2号 2009(平成21)年3月



飛鳥御嶽豊年祭（サラピヤース） 2008.6.14.



サン



多良間の八月おどり（仲筋正日 福祿寿） 2008.9.7.



上区の獅子舞（豊年祭） 2008.9.14.

宮古島市教育委員会文化振興課

編集 宮古島市史編さん事務局 住所：宮古島市平良字東仲宗根添 1166-287  
発行 TEL0980-73-0567 FAX：0980-73-0822 e-mail：shishihensan@city.miyakojima.lg.jp

# 宮古島市史編さん委員会

◎宮古島市史編さん委員会委嘱状等交付式及び平成二十年度第一回編さん委員会並びに小委員会  
平成二十年六月七日（土）に平良庁舎6階会議室において開催された。主な内容は次のとおり。

- 一・委嘱状等交付式
- ・委嘱状及び辞令交付・挨拶

教育委員長 新里玲子

- 二・平成二十年度第一回編さん委員会

- ・正副委員長の選出

委員長 仲宗根将二、副委員長 下地和宏

- ・通史編発刊スケジュールについて
- ・通史編執筆要項について
- ・執筆分担確認
- ・序章執筆について
- ・各編の頁数確認

- 三・平成二十年度第一回小委員会

- ・章及び節の頁数割り振り



委嘱状交付



第1回編さん委員会

## 事務局体制

宮古島市教育委員会生涯学習部

文化振興課

課長 下地 利幸

課長補佐 砂川 肇

文化財係

嘱託員 新垣 則子

嘱託員 佐藤 宣子

宮古島市史編さん室

駐車場

博物館

◎『宮古島市史通史編』“第五編現代”執筆者会議  
平成二十年七月四日（金）に平良庁舎6階会議室において開催された。主な内容は次のとおり。

- ・“第五編現代”頁割り振り確認
- ・“第五編現代”執筆内容の確認

◎平成二十年度第二回編さん委員会

平成二十一年三月二八日（土）に平良庁舎3階会議室において開催された。主な内容は次のとおり。

- ・原稿提出状況報告
- ・原稿最終締め切りの確認
- ・“第四編近代”を10頁減とし“第一、二編先史・グスク、古琉球”を10頁増とする。

## 「宮古島市史資料2」について

『沖縄文化』（沖縄文化協会）、『宮古・下地町調査報告書（1）』（沖縄国際大学南島文化研究所）、『宮古研究』（宮古郷土史研究会）、『宮古島市総合博物館紀要』（宮古島市総合博物館）、『平良市史編集だより』（平良市史編さん事務局）に掲載された白川氏支流系図家譜（13世恵若）、同（13世恵増）、栄河氏系図家譜正統（1世真栄）、長真氏支流系図家譜（4世旨楽）、仲立氏正統系図家譜（1世真栄）、捧銭氏系図家譜（1世建業）六本の宮古関係系図家譜を一冊にまとめ、宮古島市史資料2『宮古の系図家譜』として発行します。

※付録として作成した「宮古の系図家譜」を4～7ページに掲載しました。

↑ご協力をお願い↓

宮古島市史編さん室では、宮古の歴史に関する文書や文献資料・写真等を収集しています。史資料に関する情報提供、または史資料の寄贈その他のご協力をお願いします。



ハセハツの木

## 外間遺跡発掘調査速報

宮古島市埋蔵文化財発掘調査嘱託員 久貝 弥嗣

平成十九年十二月より始まった外間遺跡の発掘調査も、平成二十二年三月をもって終了した。現道の拡幅工事ということもあり、約一年四カ月にも及ぶ長期の発掘調査となった。これまでの調査の成果は、本紙の創刊号をはじめとしていくつか報告されているが、今回は、新たな発見も含めて中世の時期における外間遺跡の様相を考えてみたい。外間遺跡の中世の年代観は、出土する遺物などから、一四～一六世紀に位置づけられ、一五・一六世紀が中心である。

『雍正旧記』によれば、外間遺跡は、本来墓所であったとされている。発掘調査では、その記録を裏付けるように五体の埋葬人骨が検出された。い



第4号人骨  
( 男性・成人/身長 約158cm )

ずれも土を掘り込んで、埋葬を行う「土壙墓」である。性別にみてもみると男性2体、女性3体であり、記録にみられるように、必ずしも男性のみではなく、一族の墓所としての可能性も考えられる。また、土壙墓内からは、明らかな副葬品などは確認されなかったが、埋葬と関係すると思われる遺構が確認されている。それが、「列状溝群」である。列状溝群は、四つの群が確認されており、第一・四号人骨南西部で検出され溝群は最も規模が大きく、長さ一五〇～二二〇cm程の十六の溝が規則的に並んで検出されるものである。溝内には、拳大程の石灰岩礫がまとまって検出され、動物の骨も一緒に出土する。この遺構に関する明らかな答えはまだ出ていないが、埋葬墓と関連する遺構であると考えられる。しかし、一方では、一見して墓とは関係性が薄い、廃棄場的な性格をもった遺構(「土坑」)も周囲から複数検出されている。この土坑からは、陶磁器片や土器片に交じって多くの動物の骨や、貝類、炭化種子が出土している。平成十九年度に確認された土坑一(長径約五五〇cm、短径約二二〇cm、深さ約一二〇cm)に関して、これまでに分かったことをまとめてみたい。出土した動物骨に関しては、最小個体数としてウシ六体、ブタ六体、ウマ一匹、イヌ一匹の個体数が確認され、骨には解体・調理を行った際にできる刃物の傷跡が数多く確認された(早稲田大学非常勤講師・樋泉岳二氏による)。この数は、土坑一の

サイズと比較して非常に密度の高い出土状況である。貝類については、サザエが最も多く出土していることが分かった(千葉県立中央博物館・黒住耐二氏による)。また、この土坑一の土をサンプリングし、水で洗うと数多くの炭化種子が得られた。詳細な検討はまだであるが、オオムギが最も多く、コムギやイネなども確認されている(札幌大学教授・高宮広土氏による)。これらは、当時の生活を考える上で貴重な資料である。また、これらの炭化物に関しては、年代測定を行った。その結果、土坑一は、一五世紀中頃～一七世紀前半の期間内に使用されていたことが分かってきた。また、コムギに関しては、一五世紀頃、イネ、オオムギに関しては、一六世紀頃には存在していたことが科学的に明らかになった。しかし、この土坑と埋葬人骨との関係性はまだまだ見えてこない。埋葬された人々の年代観を文献にあるとおり一五世紀中頃以前と考えた場合、土坑一は、埋葬人骨よりも後世の遺構であり、御嶽として仕立てられている時代である。そう考えると、土坑一は、埋葬人骨ではなく、外間御嶽との関係性をもつ遺構として捉えられ、祭事と関係する可能性もある。もしくは、隣接していたであろう、居住域の廃棄場としての性格も考えられる。これらの検討については、今後の資料整理の大きな目標でもある。外間遺跡の最終的な調査成果に関しては、平成二十二年三月に報告書を刊行する予定である。

## 〔宮古の系図家譜〕

No.	系図家譜名	氏姓よみ	名乗頭	系祖名	屋号	系	掲載資料
16	忠導氏系図家譜支流	ちゅうどう	玄	仲宗根豊見親玄雅七世 洵鎌村真屋洵鎌筑登之親雲上玄明二男 八世 島尻仁也玄清	(洵鎌家)	宮古	『城辺町史』第1巻 『平良市史』第8巻
15	忠導氏系図家譜支流	ちゅうどう	玄	仲宗根豊見親玄雅七世 伊良部首里大屋子玄源二男 八世 伊良部掟親雲上玄春	(伊佐家)	宮古	『城辺町史』第1巻 『平良市史』第8巻
14	忠導氏系図家譜正統	ちゅうどう	玄	元祖 仲宗根豊見親玄雅	外間	宮古	『平良市史』第3巻
13	白川氏系図家譜支流	しらかわ	恵	与那覇勢頭豊見親惠源十四世 塩川与人恵最四子 十五世 平良親雲上恵慈	大三俵	宮古	『城辺町史』第1巻 『平良市史』第8巻
12	白川氏系図家譜支流	しらかわ	恵	与那覇勢頭豊見親惠源十二世 平良親雲上恵治六子 十三世 与那覇与人恵増	大味俵	宮古	『沖繩文化』第78号
11	白川氏系図家譜支流	しらかわ	恵	与那覇勢頭豊見親惠源十二世 平良親雲上恵治五子 十三世 与那覇与人恵若	大味俵	宮古	『平良市史編集だより』第21号
10	白川氏系図家譜支流	しらかわ	恵	与那覇勢頭豊見親惠源十二世 平良親雲上恵治三子 十三世 平良仁也恵顕	大味俵	宮古	『平良市史』第3巻
9	白川氏系図家譜支流	しらかわ	恵	与那覇勢頭豊見親惠源十一世 東仲宗根与人恵充四子 十二世 新里筑登之恵真	尻保立	宮古	『平良市史』第3巻
8	白川氏系図家譜支流	しらかわ	恵	与那覇勢頭豊見親惠源十一世 東仲宗根与人恵充二子 十二世 仲宗根筑登之恵隆	(山内家)	宮古	『平良市史』第3巻
7	白川氏系図家譜支流	しらかわ	恵	与那覇勢頭豊見親惠源十世 川満目差筑登之恵盛二男 川満仁屋恵政四男 十二世 川満仁也恵昌	(宮国家)	宮古	『城辺町史』第1巻
6	白川氏系図家譜支流	しらかわ	恵	与那覇勢頭豊見親惠源十世 下地親雲上恵根三子 十一世 平良親雲上恵信	西根間	宮古	『平良市史』第3巻
5	白川氏系図家譜支流	しらかわ	恵	与那覇勢頭豊見親惠源九世 下地親雲上恵是次男 十世 下地親雲上恵隆	仲根間	宮古	『平良市史』第3巻
4	白川氏系図家譜支流	しらかわ	恵	与那覇勢頭豊見親惠源六世 西仲宗根与人恵道四男 阿良志狩俣与人恵伸四男 八世 池間目差恵常	(与那覇家)	宮古	『平良市史』第3巻
3	白川氏系図家譜支流	しらかわ	恵	与那覇勢頭豊見親惠源六世 恵盛島尻首里大屋子 七世 池間目差恵正	下根間	宮古	『平良市史』第3巻
2	白川氏系図家譜支流	しらかわ	恵	父与那覇勢頭豊見親惠源五世 国仲与人恵昌 六世 砂川与人恵嵩	(本郷家)	宮古	『平良市史』第8巻
1	白川氏系図家譜正統	しらかわ	恵	元祖 与那覇勢頭豊見親惠源	大根間	宮古	『平良市史』第3巻

凡例  
 ①配列は、宮古系、沖繩本島系の順にかつ家譜数の多い順とした。同氏の支流は世代の早い順とした。  
 ②系祖名欄において、原文中の世・代を統一して世と表記した。  
 ③屋号については『平良市史第三巻資料編1』を参考にした。不明なものについては系図家譜所有者の姓を（ ）で示した。  
 ④市史資料2掲載の系図家譜名を太字で表記した。

34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17
伊安氏系図家譜正統	染地氏系図家譜支流	南興氏系図家譜支流	南興氏系図家譜支流	宮金氏系図家譜支流	長真氏系図家譜支流	真世氏系図家譜正統	河充氏系図家譜正統	栄河氏系図家譜正統	仲立氏系図家譜支流	仲立氏系図家譜正統	玻立姓系図家譜支流	玻立姓系図家譜支流	玻立姓系図家譜支流	根馬氏系図家譜支流	根馬氏系図家譜支流	根馬氏系図家譜正統	忠導氏系図家譜支流
いあん	そめじ	なんこう	なんこう	みやがね	ちようしん	しんせい	かわみつ	えいか	なかだて	なかだて	はだて	はだて	はだて	ねま	ねま	ねま	ちゆうどう
方	実	明	明	寛	旨	平	真	真	幸	幸	泰	泰	泰	定	定	定	玄
一世 豊見氏親方統	父砂川親雲上実忠嫡子新里与人実頼 三世 川満与人実理	父国仲与人明元七世川満仁屋明鏡 八世 □□□仁也明圓	国仲与人明元五世尻住屋川満与人明永□ 六世 伊良部目差親雲上明静	元祖知利真良豊見親寛忠七世下里与人寛長二子 八世 与那覇与人寛棟	砂川親雲上旨屋三世新里親雲上旨浄五男 四世 喜佐場仁屋旨楽	一世 根間与人平道	一世 友利首里大屋子真敷	一世 下地親雲上真栄	友利大殿幸憲五世仲嘉泊与人幸家二男宮国目差幸伴嫡子荷川取与人幸祐嫡子耕 作筆者荷川取筑登之幸定四男 九世 宮国仁也幸房	一世 友利大殿幸憲	父多良間親雲上泰丘 七世 多良間仁屋泰偶	六世 平良親雲上泰記五世砂川与人親雲上泰恭二男 六世 狩保目差泰謙	六世 元祖平良親雲上泰信四世洲鎌目差泰□長子洲鎌仁屋泰里三男	七世 川平首里大屋子定基六世西根間塩川与人定好四男 七世 国仲与人定義	七世 川平首里大屋子定基六世西根間塩川与人定好嫡子 七世 下里筑登之定森	一世 目黒盛豊見親定政	仲宗根豊見親玄雅八世外間長子狩保首里大屋子玄易当島詰役之時生産 十世 狩保筑登之親雲上玄陳
イヤント	(砂川家)	(砂川家)	(上地家)	(高嶺家)	(砂川家)	(根間家)	下地川満	真屋	(下地家)	(本永家)	(来間家)	(砂川家)	(仲本家)	(国仲家)	西根間	大原	(富盛家)
(宮古)	宮古	宮古	宮古	宮古	宮古	宮古	宮古	宮古	宮古	宮古	宮古	宮古	宮古	宮古	宮古	宮古	宮古
『平良市史』第8巻	『平良市史』第8巻	『平良市史』第3巻	『平良市史』第3巻	『平良市史』第3巻	『宮古研究』第7号	『平良市史』第3巻	『平良市史』第3巻	『宮古・下地町調査報告書①』	『平良市史』第3巻	『平良市史』第8巻(系図のみ) 『宮古島市総合博物館紀要』第12号	『平良市史』第8巻	『平良市史』第3巻	『多良間村史』第6巻	『平良市史』第3巻	『城辺町史』第1巻 『平良市史』第8巻	『平良市史』第3巻	『平良市史』第3巻 『多良間村史』第2巻

No.	系図家譜名	氏姓よみ	名乗頭	系	祖	名	屋号	系	掲載資料
51	向裔氏系図家譜正統	しょうえい	朝	尚氏浦添王子朝満嫡子浦添王子朝喬六男浦添親方朝師宮古島八重山島御檢使之時多良間島生産之子 一世 下地親雲上朝裔	多良間	沖繩本島	『平良市史』第3卷 『多良間村史』第2卷		
50	向裔氏系図家譜正統	しょうえい	朝	元祖尚氏浦添王子朝満長子浦添王子朝喬尚氏三司官浦添親方朝師二男与那城親雲上朝牧長子三司官北谷親方朝暢二男内間親方朝乘当島謫居之時生産之子 一世 平良親雲上朝忠	前比屋	沖繩本島	『平良市史』第8卷		
49	樺鏡氏系図家譜正統	ほうせん	建	父砂川親雲上名子男蒲 一世 川満筑登之親雲上建業	(川満家)	宮古 (新参)	『宮古研究』第8号		
48	造営氏系図家譜正統	ぞうえい	布	父浦砂川親雲上耕作假筆者之時名子也 一世 川満筑登之親雲上布建	(川満家)	宮古 (新参)	『城辺町史』第1卷 『平良市史』第8卷		
47	奉始氏系図家譜正統	ほうし	財	比嘉村百姓前里筑登之親雲上男子 一世 前里仁也財運	(比嘉家)	宮古 (新参)	『城辺町史』第1卷		
46	浦渡氏系図家譜支流	うらと	常	元祖多良間船筑常基四世塩川目差常守二男 六世 仲筋仁屋常業	(宮城家)	宮古 (多良間)	『多良間村史』第2卷		
45	浦渡氏系図家譜正統	うらと	常	一世 多良間船筑常基	宇屋計屋	宮古 (多良間)	『多良間村史』第6卷		
44	土原氏系図家譜支流	んたばる	春	父土原豊見親春源十世佐和田与人春福 十一世 伊良部首里大屋子春方	(奥平家)	宮古 (多良間)	『平良市史』第8卷 『多良間村史』第6卷		
43	土原氏系図家譜支流	んたばる	春	土原豊見親春源八世塩川与人春倫五男 九世 安慶名仁也春祀	(伊志嶺家)	宮古 (多良間)	『多良間村史』第2卷		
42	土原氏系図家譜支流	んたばる	春	七世 多良間仁屋春方	(富浜家)	宮古 (多良間)	『多良間村史』第2卷		
41	土原氏系図家譜支流	んたばる	春	父土原豊見親春源五世多良間首里大屋子春良二男 六世 水納目差春徳	前久志原	宮古 (多良間)	『多良間村史』第2卷		
40	土原氏系図家譜支流	んたばる	春	五世 西筋文字春充	(仲宗根家)	宮古 (多良間)	『多良間村史』第6卷		
39	土原氏系図家譜支流	んたばる	春	土原豊見親春源四世西筋与人春森長男 五世 東仲宗根与人春盛	(端慶山家)	宮古 (多良間)	『平良市史』第8卷 『城辺町史』第1卷 『多良間村史』第6卷		
38	土原氏系図家譜支流	んたばる	春	四世 塩川与人春簾	(仲松家)	宮古 (多良間)	『多良間村史』第6卷		
37	土原氏系図家譜支流	んたばる	春	二世 多良間首里大屋子春盛	(下地家)	宮古 (多良間)	『多良間村史』第2卷		
36	土原氏系図家譜正統	んたばる	春	元祖 土原豊見親春源	仲籠	宮古 (多良間)	『平良市史』第3卷		
35	伊安氏系図家譜支流	いあん	方	七世 豊見親方統曾孫下地親雲上方智三世国仲与人方里次男 七世 国仲仁屋方行	(国仲家)	宮古 (伊良部)	未翻刻		

68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52
和種氏系図家譜支流	姚孫氏系図家譜正統	雍姓氏系図家譜支流	益茂氏系図家譜支流	武裔氏系図家譜支流	思明氏系図家譜正統	蔡孫氏系図家譜正統	侯隆氏系図家譜正統	衡平氏系図家譜正統	英俊氏系図家譜正統	馬統氏系図家譜支流	馬統氏系図家譜正統	向裔氏系図家譜支流	向裔氏系図家譜支流	向裔氏系図家譜支流	向裔氏系図家譜支流	向裔氏系図家譜支流
わしゅ	ようそん	ようせい	ますも	ぶえい	しめい	さいそん	こうりゅう	こうへい	えいしゅん	ぼそく	ぼそく	しょうえい	しょうえい	しょうえい	しょうえい	しょうえい
景	元	興	昌	喜	常	武	正	知	恒	良	良	朝	朝	朝	朝	朝
首里府和氏志堅原親雲上景平当島在番筆者之時生産之子来間与人景秀嫡子長間目差景頂三男 四世 志堅原仁也景増	中山首里府姚氏知念親雲上元明六世志慶真筑登之親雲上元義為在番筆者在勤之時生産之子志慶真仁也元矩 三世 志慶真仁也元勇	元祖雍可懋東風平親雲上興長七世具志堅筑登之親雲上興喬次男也 八世 具志堅筑登之興朋	益茂謝名具志川親雲上里頼□□松原首里大屋子昌穩一子 二世 冽鎌目差昌包	首里府上儀保村武氏安田筑登之親雲上喜禮当島検見御使者相附詰之時生産之子 一世 喜文	父中山首里府思氏伊佐筑登之親雲上豊忠 一世 伊佐仁也常恵	中山那覇府蔡氏津堅親雲上武□当島在番詰之時生産之子 一世 与那覇与人武春	父首里侯氏古波倉親方正董六世牧志筑登之親雲上正盈 一世 島尻与人正守	元祖 照屋筑登之親雲上	父英雄運泰 重祐恵祖親雲上 一世 洲鎌与人恒充	二世 高江洲筑登之親雲上良祥	首里府馬氏高江洲親雲上良□宮古島在番詰之時生産之子島尻目差良昭当島詰役之時生産之子 二世 良寛	元祖馬氏粟国里之子親雲上良昇当島重詰医者之時生産之子 一世 良寛	尚氏浦添王子朝滿四世下地親雲上朝裔三男多良間首里大屋子朝時嫡子多良間仁屋朝盛二男 四世 多良間仁屋朝首	尚氏浦添王子朝滿四世下地親雲上朝裔四男 二世 仲筋目差朝平	尚氏浦添王子朝滿四世下地親雲上朝裔三男 二世 多良間首里大屋子朝時	尚氏浦添王子朝滿四世下地親雲上朝裔長子 二世 塩川与人朝正
(池間家)	(立津家)	(真喜志家)	友利屋	(安田家)	(伊佐家)	前比屋	高新	(渡久山家)	(平家)	(羽地家)	(佐久川家)	(渡久山家)	峰間	並里	東久志原	角比佐世
沖繩本島	沖繩本島	沖繩本島	沖繩本島	沖繩本島	沖繩本島	沖繩本島	沖繩本島	沖繩本島	沖繩本島	沖繩本島	沖繩本島	沖繩本島	沖繩本島	沖繩本島	沖繩本島	沖繩本島
『平良市史』第3巻	『平良市史』第3巻	『城辺町史』第1巻	『平良市史』第8巻	『平良市史』第3巻	『平良市史』第8巻	未翻刻	『平良市史』第8巻	未翻刻	『宮古研究』第10号(系図のみ)	『平良市史』第3巻 『多良間村史』第2巻	『平良市史』第3巻	『多良間村史』第2巻 『多良間村史』第2巻 『多良間村史』第6巻	『多良間村史』第2巻	『多良間村史』第2巻	『多良間村史』第2巻	『多良間村史』第6巻

## 近世初期 一、二、三の疑問

薩摩藩が琉球王国に「侵略」した後、宮古にもたらされた出来事について若干の疑問を提示しておきたい。

① 薩摩藩は全琉球の検地を終え、奄美諸島を直轄地として、一六一一年九月琉球国の総高八万九〇八六石余の目録を王府に下付する。十七年後に宮古の石高に六〇〇〇石余の誤りが見つかり、翌二年八月総高八万三〇八五石余の目録を改めて下付する。宮古の石高は一万二八八石余に修正される。十七年も放置された宮古の石高の誤りはどのように発見されたのか。また、十七年に及ぶ宮古の過払い租税はどのように処理されたのだろうか。

② 検地に際して村位は四等級(上・中・下・下々)、田畠は五等級(上・中・下・荒・下々田/上・中・下・荒・山畠)に分けられている。宮古も同様であったのか。同様であったとすれば三十七年の頭懸の導入で村位は修正されたのか。二九年の石高修正によれば、宮古の田地の査定は五九七石余、畠地の査定は一万六九一石余である(里積記)。田地の存在は米も収穫されていたと推測される。農民が稲作に携わっていたとすれば彼らの租税はどのように配慮されたのか。また、収穫米はどのように使われたのか。

③ 一六二五年玉那覇親雲上は租税査定で来島、

代懸によって納粟二二五四石余(高一石に付一斗八升九合八勺五寸代)を取立て、そのうちから薩摩への「御用分」の反物を買入れている(里積記・御財制)。一九年には各村に績織房(芋績屋)一座を設置させているので反物がいかに重要な品目であったかがわかる。にもかかわらず、どうして薩摩は反物を租税として扱わずに「買入れ」という形をとったのか。

④ 一六三五年の寛永盛増で上木高(宝ぬ・芭蕉・唐芋・棕櫚)を含めた石高は一万二四五八石余となる。翌年最初の人数改が実施され、以後五九年までに四度の人口調査を重ねる。当然に年令も調査される。調査に基づき三七年租税制度は代懸から頭懸に移行される。この際、村位は上・中・下村に、十五〜五十歳の男女は上・中・下・下々の四等級に分ける(里積記)。四等級の年令は一七一一年に決めたというので役人の「見立」によって四等級に分けたのであろうか。

⑤ 一六五九年喜屋武親方が租税査定で来島、従来の租税は人数の増減に応じ、穀物、反物に多少が生じているので、「穀物、反物、雑物とも人数増減無構量数御定」した(里積記)。いわゆる租税の定額制である。この制度で穀物(粟)は男、反物の上布は女、白中・下布は男女が負担することになる。この時以来、反物は正式の租税にされたと見るべきであらうか。

納粟三三六七石余のうち二二一六石が反物で租

税の六五・八%を占める。宮古の貢布三三三二反のうち薩摩へは二〇二四反、王府へは二二〇七反納める(琉球一件帳)。薩摩への割合は六二・六%である。貢布のうち薩摩への納品は「(御絵図の)模様次第一日に四、五寸或は七、八寸織調、一反にては七〇日余相掛り漸く調」えたという。そして「御用御召料細布織調方致上手は漸八、九人位にて別而難儀仕る事」であると報告している(同前)。細布は紺細上布(20柵、18柵、17柵)と考えられる。一三二一反を負担する訳はないので細布八、九人は村ごとの手練な織手の数であらうか。

⑥ 以前は男女の上・中・下は役人の「見立」で位付けしていたが、一七二一年四等級に歳分けする。上(二一〜四〇歳)、中(四一〜四五歳)、下(四六〜五〇歳)、下々(五五〜二〇歳)である(里積記)。頭懸を導入して以来「見立」の時代は七〇年余、定額制からでも半世紀に及ぶ。役人は何を基準に男女を四等級に「見立」し続けてきたのか。

用語の問題について触れておく。薩摩の「侵略」は「進入」、「侵入」、「進攻」、「侵攻」などが使用される。また、「廢藩置県」にも「廢琉置県」や「廢国置県」がある。市民権を得ている「琉球処分」にも「琉球併合」がある。宮古島市史編さん委員会としての用語の統一を再確認する必要がある。一三〇年の節目と「宮古島市史・通史編」の執筆・編集が奇しくも重なっている。(下地和宏)





平成 19 (2007) 年度 宮古島市史編さん事務局日誌 (平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

平成 19 年

4月11日(水)	博物館より「ヤーマスプナカ」「ミヤークツツ」について照会
4月20日(金)	宮国博文氏より城辺の「ウプウタキ」、「ンギヌミーウタキ」について照会
4月26日(木)	宮国盛男氏より五線譜で表記された宮古民謡について照会
5月8日(火)	伊良部町町制施行日について照会
5月10日(木)	琉球新報より照会(復帰前後の平良港の写真の有無について)
5月16日(水)	宮国博文氏より城辺地区の小中学校の変遷について照会
5月28日(月)	砂川幸夫委員来室
6月1日(金)	坂本慧氏より針突について照会
6月12日(火)	粟盛氏(石垣在)より仲宗根豊見親に「ユヌスミガ」という名の妹がいたかどうかについて照会
6月20日(水)	砂川幸夫、佐渡山政子委員来室
6月25日(月)	久貝勝盛教育長より照会(「ナガヤマズクヌアヤグ」にてでくる植物「ズピナヌパナ」について)
6月27日(水)	城辺図書館より照会(新城の年中行事の文献資料について)
6月29日(金)	宮古毎日新聞伊良波氏より照会(宮古・八重山両島絵図帳について)
	城辺図書館より照会(「殿」のつく御嶽について)
7月10日(火)	元城辺町史編さん委員下地敏夫氏来室(城辺町史編さん協力者について)
7月17日(火)	南静園証言集編集事務局よりらい病に関する資料について照会
7月21日(土)	平成19年度第1回宮古島市史編さん委員会(14～16時 平良庁舎2階会議室)
7月25日(水)	南静園証言集編集事務局より照会(昭和23年宮古議会会議録、明治20年人別仮公事帳について)
	「佐良浜」の名の由来について照会(真栄里貴代)
7月26日(木)	神奈川県立藤沢工科高校生地陽氏よりインフォーマントの紹介依頼
7月27日(金)	伊良部地区文化財巡見(文化財保護審議会に同行)
8月2日(木)	企画調整部より照会(1950年代漲水港から移出されるサンパの写真について)
8月6日(月)	佐渡山政子委員来室(宮古の戦跡資料について)
8月15日(水)	第1回通史編構想検討委員会(14時～17時 平良庁舎2階庁議室)
8月14日(火)	南静園証言集編集事務局員来室(昔の宮古の手書地図、宮古保養院の竣工、仲宗根勝米、宮古島科人公事帳について照会)
	宮古毎日新聞社より荷馬車の写真について照会
8月15日(水)	第2回通史編構想検討委員会(14時～16時 平良図書館2階集會室)
8月17日(金)	南静園証言集編集事務局員来室(下地町誌、上野村誌の閲覧等) / 佐渡山政子委員来室
8月20日(月)	宮古の「16日祭」、高校受験の昼食時の様子について照会
8月29日(水)	宮古の「節歌」について照会
9月4日(火)	南山大学吉田准教授来室(学生への協力依頼)
	ウヤガン、パントウ等で使われる植物について照会
9月7日(金)	市史10巻下掲載のオリジナルの新聞記事について照会 沖国大、琉大の野原優一講師来室(平良市史、記事仕次、町制十周年記念誌について)
9月10日(月)	宮古の綱引きについて照会
9月12日(水)	トヨタ財団助成研究「地域社会における自立的課題解決の軌跡に学ぶ」代表生地陽氏来室(サラ台風関係の1959年発行宮古毎日新聞、宮古教育時報の閲覧)
9月25日(火)	東京大学大学院経済史博士課程大澤篤氏来室(戦前の製糖業に関する資料閲覧)
	「野原のマストウリヤ」の資料収集
9月27日(木)	岡本恵昭委員来室(戦争関係の本寄贈)

10月1日(月)	「教科書検定意見撤回を求める宮古郡民大会」へ資料収集のため参加
10月15日(月)	糸満市教育委員会金城善氏来室(古文書等閲覧、浦渡氏家譜、伊佐家文書について)
10月16日(火)	立命館大学教授真下厚氏来室(仲宗根家寄託品目録・宮古島旧記・仲宗根家所蔵御嶽由来記の閲覧)
10月30日(火)	仲宗根委員長、下地和宏委員来室
10月31日(水)	農村総合整備課平良研三氏来室(政府イタ-ネットレ「宮古島発「自然との共生」のために」の撮影資料)
11月5日(月)	宮古地区PTA連合会奈良会長来室(PTA連合に関する資料について照会)
11月9日(金)	農村総合整備課平良研三氏来室(さとうきび栽培写真の閲覧)
11月12日(月)	「島尻のパントウ」見学
11月13日(火)	宮古レビの井川氏来室(下地馨氏の日記について照会)
11月22日(木)	農村整備課平良氏、番組制作スタッフ、宮古レビカメラ来室(ハ-イタル-ル広報番組の資料撮影)
11月30日(金)	宮古でのせむし瓦の発祥について照会
12月4日(火)	下地潤謙の「プナイズク」に生育していた植物「プナイ」について照会
12月8日(土)	平成19年度第2回宮古島市史編さん委員会(14～16時 平良庁舎6階会議室)

「野原のマストウリヤ」



2007.9.25.

平成 20 年

1月16日(水)	仲宗根委員長、下地和宏委員来室
1月18日(金)	琉大教育学部里井洋一教授来室(宮古の頭についての資料閲覧)
1月19日(土)	沖国大、沖大非常勤講師島山淳氏来室(宮古の戦後産業に関する資料の閲覧)
1月28日(月)	琉球大学非常勤講師藤田喜久氏来室(多良間島の地名についての文献閲覧)
1月29日(火)	宮国猛氏より資料受入(与那武岳「カニ」「スウザ」「ガマ」、戦争関係)
2月6日(水)	自衛隊員地頭園浩氏来室(戦時中の部隊の位置について調査)
2月10日(土)	平成19年度第3回宮古島市史編さん委員会及び第1回小委員会(14～16時 平良庁舎6階会議室)
2月14日(木)	福原考古学研究員泉武氏より照会(狩俣の地籍図について)
2月15日(金)	県公文書館「資料保存について」の講演会、ワークショップに参加
2月16日(土)	
2月23日(土)	狩俣で資料収集(大神島に面した崖中腹の墓、井戸の確認)
2月26日(火)	「比嘉の二十日正月」の資料収集
2月29日(金)	「琉大教育フォーラム in 宮古」ワークショップ(異文化接触-宮古上納船台湾遭難事件を例に考える-)に参加
3月21日(金)	秘書広報課より照会(城辺町歌、上野村歌の制定年月日について)
3月27日(木)	護国神社より戦没者名簿受入
3月28日(金)	久松五勇士の刳舟写真について照会

宮古の野の花 vol. 1



ナンバンギセル ハマツツボ科  
(南蛮煙管)

別名:オモイグサ 方言名:マラウイフサ

ススキ、時にサトウキビ等に寄生する。思ひ草の名で万葉集に詠まれている。

「道の辺の 尾花が下の 思ひ草  
今更々に 何か思はむ」巻十 二七〇

(by S.Noriko)